くらしと生活条令学習記

"悪質商品"の追放を

婦人運動の訴え実結ぶ

三池主婦会　島　文枝

福岡県評主婦会では、去る五月二十四日"母子いこいの家"において「くらしと生活条令」についての学習会を行ないました。

参加者は西鉄、全逓、西日本新聞労組、国鉄などの家族会に三池主婦会（六名）も参加、総員約七十名でした。

県評の縄崎教宣部長の、次のような内容のお話を聞きました。

いま、毎朝のようにたくさんのビラが新聞に折り込まれて配達され、商品や食料品を売らんかなのための、必死の宣伝が行なわれています。私たちはこのような商業戦争の中で、有害食品や欠陥商品を買わされながら、どこに文句をいっていけばよいのかさえわからずに、多くの場合泣き寝入りすることになっています。

福岡県評主婦の会や婦人協議会をはじめとする、県民春闘共闘会議の仲間といっしょに十五万名署名運動を起こし、右のような被害を受けたら救済を求め、また消費者の切実な意見が反映することを訴え、ようやく県に"消費生活条令"をつくらせることができました。消費者としての権利の主張が通ったわけです。

しかしこの条件ができたからというので、そのまま消費者が守られることにはなりません。常に食品・商品を点検し、事実を告発するための、大切な武器とすることこそが先決なことだと思います。

物価の適正化のための要（かなめ）となる法律として、今国会で独占禁止法が改正されようとしています。これは大企業の横暴から労働者や中小企業を守る目的で、米国で生れたものを日本でも制定されたものです。

独禁法は、昭和二十二年から四十六年まで一貫して無視され、不況カルテル（不況時、値下がりしないように、商品をつくらない約束を取りきめたりすること）や合理化カルテル（機械運転を停止する約束）を結んだり、または再販制度（値下げなどしてはならない仕組み）をつくったりしながら、独占企業は思うがままに物価をつり上げ、粗悪品をばらまいてもうけてきたのです。

昭和三十年に発生した森永ヒ素ミルク事件が、三十七年にはサリドマイド事件が、四十一年にポックリ病事件、四十二年にカネミ油症事件と次々にひき起こされた重大事件が、そのことを物語っています。これはとくに主婦の、物価や商品に対する無関心・無抵抗だったところをねらわれたのだといえます。

その後わき起こった消費者・国民の独占禁止法の強化を求める声を無視できず、ようやく今国会で改正法が審議されています。改正法案は、私たちが一番ねがっているカルテルの禁止、独占企業の資本分割がそれほど期待されないなどの問題点がありますものの、ひとまず独禁法が見直されたり、また県に消費生活条令を制定させることができるところまで前進したのです。

私たちは、まず悪い商品や危険な商品は買わないこと。めんどうでも市の生活課に電話ででもよいから苦情を申し立てるなどの方法で、消費者としての運動をゆり起こしていくことが大切です。

ともあれ、いろんなことを学ぶことができた学習会でした。

×

筆者は三池主婦会の会長です。

安房日記

団結旅行の一日

主婦会本所支部　一主婦会員

私たち主婦会本所支部は、五月十五日山鹿温泉の清流荘で団結集会を行ないました。一年がかりで、COヨーカンのとりくみやお茶の販売などで活動費をつくり、計画したものです。

当日は、大牟田と荒尾に居住されている主婦会の先輩の皆さんにも案内状を出し、ご出席いただきましたが、主婦会員とあわせて約五十名の参加でした。

緑ケ丘社宅ひまわり分会を始発に、荒尾市営の新車にゆられながらの一時間半の行程ですから、バスの中でののど自慢が終らないうちに山鹿へ到着。

中原実行委員長のあいさつを皮ぎりに、指導部、労金、その他来賓の皆さんのあいさつがありましたが、とりわけ主婦会結成当時の支部長さんだった中島緑さんより、「今日はなつかしい皆さんにお会いして何よりもうれしく、言葉に言いつくせません。本当にありがとうございました」、とのごあいさつに、二十四年間の主婦会運動の数かずが走馬灯のように思い起こされました。

今まで主婦会運動を続け、指導してくださった先輩の皆さんから、「案内状をいただいてうれしかったですよ。今日は参加してよかった」と喜ばれ、思いに思いにマイクをまわしながら自慢の歌をうたったり、一夜づけの踊りが披露されるなど、時間がたりないほど楽しい一日でした。

残念に思ったことは、いろいろと計画の先頭に立ってこられた田中支部長が、家事の都合でご参加できなかったことです。

最後に、みんなで宮浦鉱閉山反対の闘いと参議院議員選挙のとりくみへの意志統一をして帰路につきました。

×

主婦の皆さん、いよいよこれからうっとうしい梅雨の季節にはいります。育児に、お仕事にさぞかし大変なことでしょう。それでも、ときにはエンピツをとって、この欄へご投稿ください。自分の文が活字になるよろこびは格別です。【編集部】

六月の暦

みなづき

1日　気象記念日。それに電波の日と写真の日が重なる。
7日　計量記念日。
10日　時の記念日。
11日　入梅。本格的なつゆにはいる。
19日　父の日。
21日　夏至（げし）。夏で、昼間が一番長く、夜がもっとも短い日。夏祭が各地で始まる。
23日　沖縄慰霊の日。
30日　大はらい。

×

気象台の長期予報によると、全国的に平年より早いつゆ入りになりそう。でも中旬まで晴天多く、後半になって前線が活発となる模様。（以上連合通信から）

この月は、国民生活にとって重大な岐路ともなる参議院議員選がスタートするが、「保革伯仲」の現在の国会の勢力関係から脱してぜひ、保革逆転を実現したいもので、そのためにもみんなの大奮闘がのぞまれる。

三池労組本部の中庭の片隅に、白く、すがすがしく咲きそろったどくだみの花。

どくだみといえば、昔から漢方薬や民間薬として貴重なもの。特に血圧降下の作用をもっていて、これをヨモギや柿の葉、あるいはリンゴなどといっしょにしてすりつぶし、その青汁をいくらかの水で薄め、毎日コップ一ぱいずつ飲みつづける。すると、いつの間にか血圧は安定していく。ただし、長く服用し続けることがかんじん。

友好訪中の記

週刊誌・パチンコこそなかったが

宮浦指導部長　中屋親盛

（その1）

私は四月十四日から五月七日までの十四日間、「日中友好福岡県民の船」（団長・松本英一）団員四百四十一名の一員として三池労組から参加しました。

全体を二十二班に分け、私は六班（班長・松田留吉福岡県評次長）に属し、組合関係十九名で編成されました。

中国では上海、大連、北京の各市にそれぞれ三日間ずつ滞在しまして交流しました。訪中に当りまして組合員・主婦会員から寄せられた暖いご支援に対しまして、友好訪中の一端を報告することでお礼に代えさせていただきたいと思います。

中国は領土が日本の二十六倍。人口は八倍の八億人といわれます。このような大国を極めて短い時間で見聞したことで全体を論ずることは当を得ませんので、私の見たまま感じたままを述べたいと思います。

政治情勢が安定をとりもどす

毛沢東の社会主義革命思想が、江青女史等四人組を批判整理され華国峰に受けつがれ定着したこと。それに毛沢東選集第五巻の完成を祝福する二重のよろこびが重なって全市にただよっていることです。林立するプラカード。街々にはりめぐらされた横断幕。壁新聞や四人組を批判するマンガ展、などが雄弁に立証しています。人民は人民に奉仕するという政治信念が徹底していることです。

中日友好は想像以上

泊地や駅頭には数百人の人びとが、色とりどりの鳴物入りで熱烈な歓迎をしてくれました。市内では多くの人が手を振り、拍手で迎え、行く先々の交流の場所でも歌や踊りで、ハードスケジュールを忘れさせる熱意と誠意を感じました。

各市で行われたレセプションでは、中国側要人の挨拶に、日本と中国は二千年の友好の歴史を持っている、一日も早く真の友好を実現すること、と強調されました。このことは、至るところで見る「中日友好両国人民世世代代」、のスローガンを以って証明することができます。

清潔な街の環境

道幅も広く、よく舗装され、両側の街路樹は道路を覆うほどの大木で、落ちついた風格を備えていました。

天安門広場の前には毛沢東の記念像が建立中であるが、整然とした中に進められています。

自転車が大流行で、道路脇に並べられた自転車のあまりにも整然とした姿に日本の姿を思い比べ、あ然としました。

総学習で文盲をなくす

学校の教育はもちろんですが、学校と家庭と国家が一つになって教育にとり組んでいる。とくに、放課後の教育施設が充実していることに驚きました。

さらに人民公社、工場、病院、商店などでも決められた勉強時間があることに、日本との違いを大いに教えられました。

今世紀中に世界一を目指す生産体制

中国ではいま、全産業にわたって生産基盤の拡大充実が着々と進められています。「農業は大寨に学び」「工業は大慶に学べ」を実践に移し、軍事・工業・農業・教育・幹部指導の五味一体を以って今世紀中には世界第一位になると自信に満ちた生産計画を推進しています。

生活程度はまだ低い

いま新しい住宅づくりが進められ、住宅が徐々に近代化されつつあります。自転車、腕時計、写真機（二眼レフ）などが流行し、テレビは一般家庭にはまだ普及していません。家庭の調度も最少限度必要なもので、生活の向上は未来に希望をもって現在に満足し、明るく働き、学んでいます。

充実した社会施設と補償

中国は人民に奉仕する立場から女性も働くことが原則になっています。それだけに女性が働きやすいように、工場にも育児施設があり、診療所が設置されています。

村には診療所があって、家庭を訪問し、予防措置に力を入れています。停年になれば、心配なく生活ができる補償があります。

自衛の防備に力点をかける

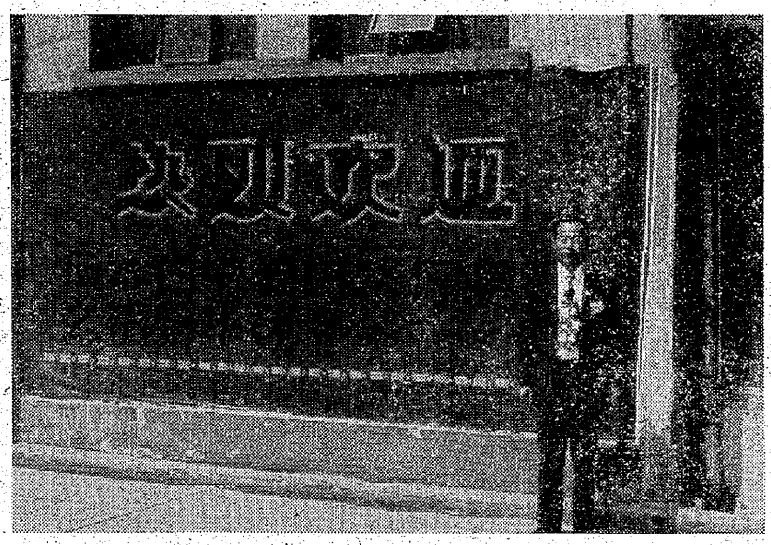
中国には常時七百万人の軍隊がいる、と説明を受けました。この主力は東北（旧満州）に配置されているそうです。

街や学校の近くに地下豪を掘り児童にも民兵として自衛の実地訓練を実施しています。ソ連に対する強い批判の説明を聞くたびに、中ソ論争の根深さと中国の軍備強化路線のあり方が気になりましたが、「中国は決して外国を侵略しません」のひと声に、そうあってほしい、と祈る気持でした。

具体的なものの報告を致しますと——

①上海工業展覧会

ここは上海市の中央部にある建坪一万平方メートルの中に、五十四年解放後上海市で開発された主要な工業機械から繊維に至るまで中国産業の動脈として活動しているものを一堂に集めた館であります。関係者百名が要所要所で機械を動かし、説明してくれます。一時間に六百人の注射をする機械、針麻酔の実技や機械などもあります。午前中は外国のお客さんに見学させ、午後は中国人民の自由な観覧・研究の場になる、ということでした。入場料は無料です。



上海のとある工場で……